

安全データシート

ジクマロール

改訂日: 2024-01-24 版番号: 1

1. 化学品及び会社情報

製品識別子

製品名 : ジクマロール
CB番号 : CB9224757
CAS : 66-76-2
EINECS番号 : 200-632-9

物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

関連する特定用途 : 抗凝血剤、殺鼠剤
推奨されない用途 : なし

会社ID

会社名 : Chemicalbook
住所 : 北京市海淀区上地十街匯煌国際1号棟
電話 : 010-86108875

2. 危険有害性の要約

GHS分類

分類実施日

H24.3.1、政府向けGHS分類ガイダンス(H22.7月版)を使用

環境に対する有害性はGHS改訂4版を使用

健康に対する有害性

急性毒性(経口) 区分3

特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分2(血液)

特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分2(血液)

環境に対する有害性

水生環境有害性(急性) 区分2

水生環境有害性(長期間) 区分2

2.2 注意書きも含む GHSラベル要素

絵表示

GHS06	GHS08	GHS09

注意喚起語

危険

危険有害性情報

H301 飲み込むと有毒。

H372 反復してあるいは長期にわたり飲み込んだ場合、又は反復暴露による臓器 (全身毒性) の障害。

H411 長期継続的影響によって水生生物に毒性。

注意書き

安全対策

P264 取扱い後は皮膚をよく洗うこと。

P270 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

P273 環境への放出を避けること。

応急措置

P301 + P310 飲み込んだ場合: 直ちに医師に連絡すること。

P314 気分が悪いときは、医師の診察 / 手当てを受けること。

P391 漏出物を回収すること。

保管

P405 施錠して保管すること。

廃棄

P501 内容物 / 容器を承認された処理施設に廃棄すること。

2.3 他の危険有害性

なし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	: 化学物質
化学特性(示性式、構造式 等)	: C ₁₉ H ₁₂ O ₆
分子量	: 336.3 g/mol
CAS番号	: 66-76-2
EC番号	: 200-632-9
化審法官報公示番号	: -
安衛法官報公示番号	: -

4. 応急措置

4.1 必要な応急手当

一般的アドバイス

この安全データシートを担当医に見せる。

吸入した場合

吸入後は新鮮な空気を吸うこと。ただちに医師の診察を受けること。

皮膚に付着した場合

皮膚に接触した場合: すべての汚染された衣類を直ちに脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。

眼に入った場合

眼に触れた後は多量の水ですすぐこと。コンタクトレンズをはずす。

飲み込んだ場合

飲み込んだ場合は水を飲ませる(多くても2杯)。ただちに医師の診察を受けること。1時間以内に治療が受けられないという例外的な状況のみ、嘔吐させ(相手に完全に意識のある場合のみ)、活性炭(10%懸濁液に20～40g)を投与してできるだけ早く医師の診察を受ける。

4.2 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

もっとも重要な既知の徴候と症状は、ラベル表示(項目2.2を参照)および/または項目11に記載されている

4.3 緊急治療及び必要とされる特別処置の指示

データなし

5. 火災時の措置

5.1 消火剤

使ってはならない消火剤

本物質/混合物に対する消火剤の制限なし

適切な消火剤

水 泡 二酸化炭素 (CO₂) 粉末

5.2 特有の危険有害性

炭素酸化物

可燃性。

火災時に有害な燃焼ガスや蒸気を生じるおそれあり。

5.3 消防士へのアドバイス

自給式呼吸器がある場合のみ危険区域に留まってもよい。安全なゾーンまで離れるか適切な保護衣を着用して、皮膚に触れないようにすること。

5.4 詳細情報

消火水が、地上水または地下水のシステムを汚染しないようにする。

6. 漏出時の措置

6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

救急隊員以外への助言: いかなる場合も、ほこりを生じさせたり吸い込んだりしないようにすること。触れないようにすること。十分な換気を確保する。危険なエリアから避難し、緊急時手順に従い、専門家に相談のこと個人保護については項目 8 を参照する。

6.2 環境に対する注意事項

物質が排水施設に流れ込まないようにする。

6.3 封じ込め及び浄化の方法及び機材

排水溝に蓋をすること。こぼれたら集めて結合させ、ポンプですくい取る。物質の制限があれば順守のこと (セクション 7、10参照) 慎重に行うこと。適切に廃棄すること。関連エリアを清掃のこと。ほこりが生じないようにすること。

6.4 参照すべき他の項目

廃棄はセクション13を参照。

7. 取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

注意事項は項目2.2を参照。

7.2 配合禁忌等を踏まえた保管条件

保管条件

密閉のこと。乾燥。換気のよい場所で保管する。鍵をかけておくか、資格のあるまたは認可された人のみが入り出できる場所に入れておく。推奨された保管温度、製品のラベルを参照してください。

7.3 特定の最終用途

項目1.2に記載されている用途以外には、その他の特定の用途が定められていない

8. ばく露防止及び保護措置

8.1 管理濃度

コンポーネント別作業環境測定パラメータ

許容濃度が設定されている物質を含有していない。

8.2 曝露防止

適切な技術的管理

汚した衣類はただちに替えること。予防的な皮膚保護を講じること。本物質を取り扱った後は手と顔を洗うこと。

保護具

眼 / 顔面の保護

NIOSH (US) または EN 166 (EU) などの適切な政府機関の規格で試験され、認められた眼の保護具を使用する。保護眼鏡

皮膚及び身体の保護具

本推奨は、当社発行の安全データシートに記載されている製品およびその指定の使用法のみ
に適用される。溶解、他の物質との混合、および EN374 に記載の逸脱条件での使用については、
CE 認証手袋のサプライヤに問い合わせのこと (例: KCL GmbH, D-36124 Eichenzell, Internet:
www.kcl.de)

フルコンタクト

材質: ニトリルゴム

最小厚: 0.11 mm

破過時間: 480 min

試験物質: KCL 741 Dermatrill® L

本推奨は、当社発行の安全データシートに記載されている製品およびその指定の使用法のみ

適用される。溶解、他の物質との混合、およびEN374に記載の逸脱条件での使用については、

CE認証手袋のサプライヤに問い合わせのこと(例. KCL GmbH, D-36124 Eichenzell, Internet:

www.kcl.de)

飛沫への接触

材質: ニトリルゴム

最小厚: 0.11 mm

破過時間: 480 min

試験物質: KCL 741 Dermatril® L

身体のプロテクト

保護衣

呼吸用保護具

ほこりが生じた際に必要。

次の規格に準拠しているフィルター式呼吸器保護具を推奨します。DIN EN 143、DIN 14387お

よび使用済み呼吸器保護システムに関連する他の付属規格。

環境暴露の制御

物質が排水施設に流れ込まないようにする。

9. 物理的及び化学的性質

Information on basic physicochemical properties

形状	結晶粉末(HSDB (2003))
色	白から乳白色(HSDB (2003))
臭い	僅かな快い香り(HSDB (2003))
臭いのしきい(閾)値	データなし。
pH	7.4(HSDB (2003))
287-293°C(Merck (14th, 2006))	
データなし。	
データなし。	
データなし。	
データなし。	
データなし。	
0.0000000000000000602 mmHg(25°C)(Howard (1997))	
データなし。	
データなし。	
水:128mg/L(Howard (1997))	
ベンゼン、クロロホルム、ピリジンに溶解(Gangolli (2nd, 1999))	
2.07(HSDB (2003))	
データなし。	
データなし。	
データなし。	

融点・凝固点

287-293℃(Merck (14th, 2006))

沸点、初留点及び沸騰範囲

データなし。

引火点

データなし。

蒸発速度(酢酸ブチル=1)

データなし。

燃焼性(固体、気体)

データなし。

燃焼又は爆発範囲

データなし。

蒸気圧

0.0000000000000000602 mmHg(25℃)(Howard (1997))

蒸気密度

データなし。

比重(相対密度)

データなし。

溶解度

水:128mg/L(Howard (1997))

ベンゼン、クロロホルム、ピリジンに溶解(Gangolli (2nd, 1999))

n-オクタノール/水分配係数

2.07(HSDB (2003))

自然発火温度

データなし。

分解温度

データなし。

粘度(粘性率)

データなし。

10. 安定性及び反応性

10.1 反応性

可燃性有機物質及び製剤に概ね該当：微細に分散し、舞い上がった場合、粉じん爆発を起こす可能性が通常想定される。

10.2 化学的安定性

標準的な大気条件(室温)で化学的に安定。

10.3 危険有害反応可能性

データなし

10.4 避けるべき条件

情報なし

10.5 混触危険物質

強酸化剤

10.6 危険有害な分解生成物

火災の場合:項目5を参照

11. 有害性情報

急性毒性

経口

ラットのLD50値は250 mg/kg bw(HSDB (2003))である。GHS分類:区分3 ラットのLD50値は250 mg/kg bw(HSDB (2003))に基づき、区分3とした。

経皮

データなし。GHS分類:分類できない データなし。

吸入:ガス

GHSの定義における固体である。GHS分類:分類対象外 GHSの定義における固体である。

吸入:蒸気

データなし。GHS分類:分類できない データなし。

吸入:粉じん及びミスト

データなし。GHS分類:分類できない データなし。

皮膚腐食性及び刺激性

データなし。GHS分類:分類できない データなし。

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

データなし。GHS分類:分類できない データなし。

呼吸器感作性

データなし。GHS分類:分類できない データなし。

皮膚感作性

データなし。GHS分類:分類できない データなし。

生殖細胞変異原性

データなし。GHS分類:分類できない データなし。

発がん性

データなし。GHS分類:分類できない データなし。

生殖毒性

データ不足。なお、妊娠中に本物質(抗凝血薬として使用されていた)を投与された妊婦が口蓋裂の児を出産した事例が1件(Teratogenic (12th, 2007))あり、また、本物質はCalifornia Proposition 65では発生毒性物質として記載されている(Birth Defects (3rd, 2000))が、いずれも詳細が不明である。GHS分類:分類できない データ不足。なお、妊娠中に本物質(抗凝血薬として使用されていた)を投与された妊婦が口蓋裂の児を出産した事例が1件(Teratogenic (12th, 2007)、List2相当)あり、また、本物質はCalifornia Proposition 65では発生毒性物質として記載されている(Birth Defects (3rd, 2000)、List2相当)が、いずれも詳細が不明なため「分類できない」とした。

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

抗凝血薬として使用されていた本物質の主な毒性は出血であり、特に、頭蓋内、心臓周囲、神経鞘などの圧搾、または内臓の大量出血により、重篤な事象として不可逆的障害を引き起こす(HSDB (2003))。急性影響は出血部位に依存し、咯血、血尿、消化管出血、腹部・背部痛(後腹膜出血)、関節血症、脳血管障害などがある(HSDB (2003))。GHS分類:区分2(血液) 抗凝血薬として使用されていた本物質の主な毒性は出血であり、特に、頭蓋内、心臓周囲、神経鞘などの圧搾、または内臓の大量出血により、重篤な事象として不可逆的障害を引き起こす(HSDB (2003))。急性影響は出血部位に依存し、咯血、血尿、消化管出血、腹部・背部痛(後腹膜出血)、関節血症、脳血管障害などがある(HSDB (2003))との記述に基づき、List 2情報であることから区分2(血液)とした。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

抗凝血薬として使用されていた本物質の主な毒性は出血であり、特に、頭蓋内、心臓周囲、神経鞘などの圧搾、または内臓の大量出血により、重篤な事象として不可逆的障害を引き起こす(HSDB (2003))。本物質を含む干し草で飼育された子牛に出血素質が現れ、プロトロンビン時間および活性化部分トロンボプラスチン時間の延長が見られ、脱力、硬直歩行、頻脈、頻呼吸、血腫を示し、突然死亡した。剖検で血液凝固の欠如がみられた、また、ほとんどの臓器で出血が認められ、血清中に本物質が検出された(HSDB (2003))。GHS分類:区分2(血液)なお、EU分類ではT; R48(EC-JRC (ESIS) (Access on July. 2011))である。抗凝血薬として使用されていた本物質の主な毒性は出血であり、特に、頭蓋内、心臓周囲、神経鞘などの圧搾、または内臓の大量出血により、重篤な事象として不可逆的障害を引き起こす(HSDB (2003))。本物質を含む干し草で飼育された子牛に出血素質が現れ、プロトロンビン時間および活性化部分トロンボプラスチン時間の延長が見られ、脱力、硬直歩行、頻脈、頻呼吸、血腫を示し、突然死亡した。剖検で血液凝固の欠如がみられた、また、ほとんどの臓器で出血が認められ、血清中に本物質が検出された(HSDB (2003))。以上の知見

吸引性呼吸器有害性

データなし。GHS分類:分類できない データなし。

12. 環境影響情報

12.1 生態毒性

魚毒性

LC50 - Pimephales promelas (ファットヘッドミノウ) - 5.11 mg/l - 96.0 h

12.2 残留性・分解性

データなし

12.3 生体蓄積性

データなし

12.4 土壤中の移動性

データなし

12.5 PBT および vPvB の評価結果

化学物質安全性評価が必要ではない/行っていないため、PBT/vPvB評価データはない。

13. 廃棄上の注意

13.1 廃棄物処理方法

製品

内容及び容器は、関連法規及び各自治体の条例等の規制に従い、産業廃棄物として適切に処理すること。

14. 輸送上の注意

14.1 国連番号

ADR/RID（陸上規制）：2811 IMDG（海上規制）：2811 IATA-DGR（航空規制）：2811

14.2 国連輸送名

ADR/RID（陸上規制）：TOXIC SOLID, ORGANIC, N.O.S. (4,4'-ジヒドロキシ-3,3'-メチレンジ-2H-クロメン-2-オン)

IMDG（海上規制）：TOXIC SOLID, ORGANIC, N.O.S. (4,4'-Dihydroxy-3,3'-methylenebis(2H-chromen-2-one))

IATA-DGR（航空規制）：Toxic solid, organic, n.o.s. (4,4'-Dihydroxy-3,3'-methylenebis(2H-chromen-2-one))

14.3 輸送危険有害性クラス

ADR/RID（陸上規制）：6.1 IMDG（海上規制）：6.1 IATA-DGR（航空規制）：6.1

14.4 容器等級

ADR/RID（陸上規制）：III IMDG（海上規制）：III IATA-DGR（航空規制）：III

14.5 環境危険有害性

ADR/RID: 非該当 IMDG 海洋汚染物質(該当・非該当): IATA-DGR（航空規制）：非該当
非該当

14.6 特別の安全対策

なし

14.7 混触危険物質

強酸化剤

15. 適用法令

船舶安全法

毒物

航空法

毒物

16. その他の情報

略語と頭字語

ADR: 道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定

CAS: ケミカルアブストラクトサービス

EC50: 有効濃度 50%

IATA: 国際航空運送協会

IMDG: 国際海上危険物

LC50: 致死濃度 50%

LD50: 致死量 50%

RID: 鉄道による危険物の国際輸送に関する規則

STEL: 短期暴露限度

TWA: 時間加重平均

参考文献

【1】労働安全衛生法 ウェブサイト <https://www.mhlw.go.jp>

【2】化学物質審査規制法（化審法） <https://www.env.go.jp>

【3】化学物質排出把握管理促進法（PRTR法） <https://www.chemicoco.env.go.jp>

【4】NITE化学物質総合情報提供システム（NITE-CHIRP） <https://www.nite.go.jp/>

【5】カメオケミカルズ公式サイト <http://cameochemicals.noaa.gov/search/simple>

【6】ChemIDplus、ウェブサイト <http://chem.sis.nlm.nih.gov/chemidplus/chemidlite.jsp>

【7】ECHA - 欧州化学物質庁、ウェブサイト <https://echa.europa.eu/>

【8】eChemPortal - OECD 化学物質情報グローバルポータル、ウェブサイト [http://www.echemportal.org/echemportal/index?](http://www.echemportal.org/echemportal/index?pageID=0&request_locale=en)

【9】ERG - 米国運輸省による緊急対応ガイドブック、ウェブサイト <http://www.phmsa.dot.gov/hazmat/library/erg>

【10】有害物質に関するドイツ GESTIS データベース、ウェブサイト <http://www.dguv.de/ifa/gestis/gestis-stoffdatenbank/index-2.jsp>

【11】HSDB - 有害物質データバンク、ウェブサイト <https://toxnet.nlm.nih.gov/newtoxnet/hsdb.htm>

【12】IARC - 国際がん研究機関、ウェブサイト <http://www.iarc.fr/>

【13】IPCS - The International Chemical Safety Cards (ICSC)、ウェブサイト <http://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.home>

【14】Sigma-Aldrich、ウェブサイト <https://www.sigmaaldrich.com/>

免責事項:

本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本SDSの適用

性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。